



▲加賀 理事長

第65期通常総会

ビジョン・事業計画策定見直しへ

補助金・税制事業の情報発信と教育情報事業に注力

近畿印刷産業機材協同組合(加賀順三理事長)の第65期通常総会が6月5日、帝国ホテル大阪において開かれ、新旧年度事業および収支予算など、議案すべて原案通り承認可決された。

6月5日、帝国ホテル大阪で議案すべて原案通り承認可決

昨年度の同協組は、BCPセミナーや消費税転嫁カルテル報告会などを実施したほか、大阪府支援のもと、組合ビジョン作成事業を実施。組合員へのアンケートを参考に専門家のアドバイスをを受け、次年度以降の詳細なビジョン作成に活かす土台とした。



講師の河野智子氏

新年度は、大阪府の既存事業である組合等事業向上支援事業を活用し、組合のビジョン・事業計画策定を見直すとともに、補助金事業や税制事業に関する情報の発信と教育情報事業に注力。また、関連他団体との連携を強化し、とくに若手経営者が中心となって組織するKPMA若生会とは共同で事業を実施していく。新年度予算は3,428万円。

総会終了後には、「人間力アップセミナー～明日から人間力をアップし営業に使える!」と題し、接遇講師である河野智子氏による講演会も行われた。

引き続き催された懇親会の席で挨拶に立った加賀理事長は、大要次のように述べた。

「10年ほど前から、新人の社員が『正当に評価してもらえない』と文句を言うことがよくあるそうだ。その理由が、『私は指示されたことはちゃんとしているのだから高い評価を受けて当然だ』ということらしい。勿論一所懸命が



▲人間力アップセミナーの様子



▲懇親会の様子

ばっていることは確かだが、やはりどこか間違っていると思うのは、私だけではないと思う。

多くの若手社員の方は、学生時代、解答のある問題の解き方を習い、それを忠実に実行することでマルを付けられ、それが100点満点ならば最高の賛辞を受けてきたのだと思う。しかし社会では、お客様が商品やサービスに満足しているのかが判断材料となる。

若手の社員に、言われたことをするだけでは最低のサービスだということを教えることも大切だが、我々自身日々の忙しさの中で、普通のサービスで「よし」としているところはないかを振り返ってみるべきではないか。普通のサービスはどこの企業でもやっている。お客様の期待以上の商品やサービスを届けなければ他との選別にはならないのである」